



### 発行者

北海道へき地・複式教育研究連盟  
[www.hamanasu.com./doheki](http://www.hamanasu.com./doheki)

委員長 田中和敏

編集責任者 古田統

印刷所 株式会社ビジネスサポート

虻田郡豊浦町字東雲町48-18 TEL0142-82-3313

題字 書家 濱谷 彩鶴 (はまや さいかく) 氏

## 実践の積み重ねと加盟校のつながりを 道へき・複連の充実・発展に

北海道へき地・複式教育研究連盟委員長 田 中 和 敏



本「道へき・複連情報155号」の発行をもって本年度の事業をほぼ終え、5月の総会を残すのみとなりました。

特に、連盟の二大事業である、第64回全道へき地複式教育研究大会宗谷大会と第65回全道へき地複式教育研究大会

渡島プレ大会を、会員の皆様、関係機関の皆様の尽力のお陰で、盛会裏に終えることができました。

「オール宗谷」を合言葉とした宗谷大会では、平成13年第50回宗谷大会で得た「わかる授業づくり、学力の向上、民主的な学校づくり、連帯と共同、市町村教育の充実」を『五つの財産』として、継承・発展させてきた宗谷複式教育連盟の積み重ねを肌で感じる大会となりました。市町村の研究団体との共同開催、複式理科の授業公開、集合学習の公開など、分科会の充実は顕著なものでした。また、若い先生方の意欲に溢れた授業、参加者の皆様による熱心な討議も印象に残るものでした。

渡島プレ大会では、「一人一人の指導に目が行き届く」「個に直接関わることができる」「異学年間の児童の関わり方が多様にできる」「地域の教育環境を利用した、体験的な特色ある教育活動が行いやすい」など、へき地・複式教育の特徴を

生かした実践が公開され、次年度の大会に向けた道筋が付けられました。

10月に開催された第64回全国へき地教育研究大会熊本大会には、北海道から14名の参加者がありました。第1分散会では、別海町立西春別小学校の新谷昌也教諭が「一人一人が主体的に学び、確かな学力を身に付ける子どもの育成」という研究主題で、複式授業におけるICTの活用などについて発表されました。

次年度の全国大会は、隣の青森県で開催されます。多くの皆様に参加いただき、全国の実践を学ぶとともに、北海道の実践力の高さを発信していただきたいと期待しています。

本連盟には、加盟校減少に起因する課題が山積していますが、その克服の第一歩は会員の実践力の向上に向けた取組だと考えます。

過日の常任委員会では、次年度も、これまで培ってきた北海道のへき地・複式教育の財産を生かし、各校の実践研究を積み重ね、加盟校同士がしっかりと手を取り合い、へき地・複式教育の充実・発展に向けて努力していくことを確認いたしました。会員の皆様、関係機関の皆様の更なるご理解とご支援をお願い申し上げます。

結びに、今年度、北海道へき地・複式教育研究連盟に対してご支援いただいた皆様に深く感謝とお礼を申し上げ、道へき・複連情報155号発行にあたってのご挨拶といたします。

**平成27年度 会務報告**

事務局長 柿崎 秀顕

**1 一般経過報告(概要)****【5月】**

- 8日(金) 平成27年度定期総会(9:30～)  
新旧役員の引き継ぎ、第1回組織検討委員会  
第1回常任委員会(午後開催)  
関係機関への就任挨拶回り(道教委、教育出版)
- 13日(水) 日本教育公務員弘済会 へき地学校教育支援事業 助成校決定  
小38、中16 計54校 総額380万円
- 18日(月)～19日(火)  
第1回企画委員会、第1回研究推進委員会(ライフオート札幌)
- 26日(火) 日本教育公務員弘済会 教育研究団体助成金 決定20万円

**【6月】**

- 4日(木)～5日(金)  
全へき連春季総会・第1回理事会(東京～委員長)  
第2回常任委員会案内文送付
- 16日(火) 広報誌153号発行  
日本教育公務員弘済会から20万円の研究助成金が入金
- 22日(月) 広報誌153号HP更新依頼・更新

**【7月】**

- 6日(月)～7日(火)  
第2回企画委員会、第2回研究推進委員会(ライフオート札幌)
- 14日(火) 渡島大会開催に向け渡島教育局及び管内教育長会議において協力依頼を行う(委員長、事務局長)
- 27日(月)～28日(火)  
全へき第2回理事会(東京～委員長)
- 30日(木) 第2回組織検討委員会(ホテルライフオート札幌 13:30～)  
臨時常任委員会(ホテルライフオート札幌 15:10～)
- 31日(金) 全へき第1回図書編纂委員会(東京～研究部長)

**【8月】**

- 29日(土) 道へき・複連OB会役員会・総会  
(アパホテル～委員長、事務局長、事

務局次長)

**【9月】**

- 16日(水) 第1回監査委員会、第3回常任委員会、第3回研究推進委員会
- 17日(木)～18日(金)  
評議委員会、第64回北海道へき地複式教育研究大会宗谷大会  
※1日目:全体会、分散会  
2日目:分科会
- 25日(金) 第65回北海道へき地複式教育研究大会渡島プレ大会  
各分科会への巡回訪問(総務部長・財政部長・事務局長・事務局次長)

**【10月】**

- 14日(水) 全へき連秋季総会、第3回理事会(東京～委員長)
- 15日(木)～16日(金)  
第64回全国へき地教育研究大会熊本大会(委員長、研究部長)

**【11月】**

- 17日(火) 道へき・複連情報154号発行
- 18日(水) 全へき連第4回理事会(東京～委員長、研究部長)
- 19日(木)～20日(金)  
第38回全へき連研究推進協議会(東京～委員長、研究部長)  
全へき連第2回図書編纂委員会(東京～研究部長)
- 28日(土) OB会役員会、研修会(アパホテル～事務局長、事務局次長)

**【12月】**

- 3日(火) 道へき・複連情報154号HP更新依頼・更新

**【1月】**

- 22日(金) 第4回常任委員会  
第4回組織検討委員会(ライフオート)
- 26日(火) 弘済会 平成27年度教育研究団体助成研究成果報告書提出
- 29日(金) 全へき連第3回図書編纂委員会(東京～研究部長)

**【2月】**

- 15日(月)～16日(火)  
第4回企画委員会  
第4回研究推進委員会(ライフオート札幌 研究部長)  
道へき・複連情報155号発行

17日(水) 道へき・複連情報155号HP更新依頼・更新

19日(木)～20日(金)

全へき連第5回理事会(東京～委員長)

## 【5月】

12日(木) 平成27年度第5回常任委員会  
第2回監査委員会

13日(金) 平成28年度北海道へき地・複式教育  
研究連盟定期総会  
第1回常任委員会、第1回組織検討  
委員会

## 2 一般業務報告

本連盟は、昭和23年に結成され67年目を迎えました。これまでの67年間、地域に根ざした教育を探究するとともにへき地校の教育条件整備を進め、確実に成果を重ねてきました。平成27年度においても、研究、組織、教育条件整備等の課題解決に向け業務を推進してきましたので、その概要を申し上げます。

◇研究面では、第9次長期5か年研究推進計画の2年目として、第64回全道へき地複式教育研究大会宗谷大会、第65回全道へき地複式教育研究大会渡島プレ大会を開催いたしました。

現地実行委員会、会場校並びに各地区へき地複式連盟(研究会)の多大なご努力とご協力により、実践的研究成果が全道に発信され、第8次長計から第9次長計へと確実に発展させる研究成果の発信をすることが出来ました。

また、昨年度から全道大会に統合することとなった実践研究発表大会は、今年も宗谷大会1日目に分散会として開催し、全道各地のへき地・複式教育の実践発表と交流を行うことができ、新たな体制の研究大会が確実に踏み出したことが確認出来ました。

◇組織面では、各市町村による学校規模適性配置計画の推進や少子化による児童生徒数の減少からへき地・小規模校の統廃合が進み、加盟校及び会員の減少が加速しております。これに伴う今後の組織や事業の在り方、財政運営について、組織検討委員会の答申を受けて、ICT活用による業務推進、会議数の見直しなど、組織運営のスリム化と効率化に向け検討しました。

また、未加盟校への働きかけについては、各地区に道へき・複連発足の趣旨や目的、

加盟することのメリット等についての啓発活動を行うなどの意識高揚に向けた取組をお願いしてきました。

◇教育条件整備については、3学級4定員や教頭未配置校の解消をはじめ、へき地複式校の抱える諸課題解決のため、全へき連、道小、道へき・複連OB会と連携しながら、関係機関に要請してきました。

・「へき地手当に関する規則の運用等についての一部改定」により平成22年4月から始まったへき地新級地の適用について、今後も、地域の実態に応じた算定であるか、適切な調整点であるかなどの検討に努め、国や道へ意見具申を続けていきます。

・全へき連のホームページ充実の一環である、全国のへき地小規模校のホームページとのリンク作業に取り組みました。加盟校は減少していますが、リンク校は情報環境の整備等により増加しています。

◇研究推進、組織確立、財政上の諸課題につきましては、組織検討委員会を設置して検討を重ねてきました。中間答申をもって報告させていただきましたが、連盟だけでなく各地区の課題も踏まえた論議を重ね、時代や社会環境の変化に対応した組織運営を目指してきました。

## 3 情報関係活動経過報告(概要)

事務局次長 古田 統

5月8日(金) 定期総会で「道へき・複連情報」発行計画を承認

情報153号原稿依頼

6月16日(火) 情報153号発行・発送

22日(月) 道へき・複連HP更新

7月30日(木) 情報154号原稿依頼

11月17日(火) 情報154号発行・発送

12月3日(木) 道へき・複連HP更新

1月22日(金) 情報155号原稿依頼

2月16日(火) 情報155号発行・発送

## 4 情報関係業務報告

### (1) 情報関係

「道へき・複連情報誌」(153、154、155号)を発行し、広報活動に努めました。153号では定期総会特集、154号では第64回全道へき地複式教育研究大会宗谷大会特集、155号では平成27年度の活動報告及び次年度の本大会である渡島大会やプレ大会の釧路

大会についてのお知らせを掲載しました。今年度開催された宗谷大会の推進に際し、ご尽力いただいた宗谷へき・複連の皆様をはじめ、多くの方に情報提供や原稿執筆を賜りましたことに改めて感謝とお礼を申し上げます。

また、北海道教育大学学校・地域教育研究支援センターの協力を得て、道へき・複連ホームページの内容更新をさせていただいていることに重ねて感謝いたします。

最後になりましたが、各地区のへき・複連事務局におかれましては、お忙しい中情報提供、加盟校への連絡や配布、お願い等に対して快くご協力いただいたことに心よりお礼を申し上げます。

〈各号の主な内容〉

【第153号】

平成27年度 道へき・複連定期総会特集号

- ・ 定期総会報告
- ・ 第64回全道へき地複式教育研究大会宗谷大会の案内
- ・ 第65回全道へき地複式教育研究大会渡島プレ大会の案内

【第154号】

第64回全道へき地複式教育研究大会宗谷大会特集号

- ・ 宗谷大会の報告
- ・ 第65回全道へき地複式教育研究大会渡島大会案内

【第155号】

平成27年度 道へき・複連活動報告特集号

- ・ 今年度の活動報告
- ・ 第65回全道へき地複式教育研究大会渡島大会に向けて
- ・ 第66回全道へき地複式教育研究大会釧路プレ大会に向けて

〈道へき・複連ホームページの内容〉

- 1 道へき・複連刊行物
- 2 研究主題
- 3 全道へき地複式教育研究大会関係・プレ大会関係
- 4 全国へき地教育研究大会関係
- 5 実践研究発表大会
- 6 要覧
- 7 へき地教師の歌「太陽となろう」・シンボルマーク

(2)「全国へき地教育新聞」関係

① 購読拡大の取組

「全国へき地教育新聞」は、全へき連とへき地・複式校を結ぶ唯一の機関紙であり、へき地・複式教育に係る各種情報を掲載するとともに、私たちの教育実践を発表し、広く交流できる新聞です。しかしながら、へき地・複式校の減少に伴い、購読料の減少が発行を困難にする要因になってきている現状もあります。読者の購読料により刊行される新聞のため、より多くの読者に購読されるよう今後も努めていかなければなりません。各地区へき・複連で納入する場合については一部に付き150円の還元をさせていただいていることをお知らせしながら、改めて各地区での「全国へき地教育新聞」の購読強化をお願いするところです。

〈取組の手立て〉

- 購読率の低い地域に購読校を増やすよう働きかける。
- 各地区へき・複連に未購読校への働きかけをすると同時に、関係機関に購読料の予算化を働きかける。
- 各地区へき・複連の会議、会合において購読の呼びかけを行う。
- 各地区へき・複連に「全国へき地教育新聞」担当者または係を置き、地区内の購読校の把握をし、集金事務を行う。
- 「全国へき地教育新聞」担当者を決め、地区へき・複連との連携を図る。

②「全国へき地教育新聞」原稿執筆の取組

原稿種別、送付月を地区ごとに割り振り、執筆をお願いしました。(今年度原稿本数38本)

これまでの各地区へき・複連および執筆者各位のご協力に対しまして心より感謝とお礼を申し上げます。なお、全国へき地教育新聞編集局の依頼で、執筆原稿はメールまたは封書にて執筆者が直接送信(返信)することになっておりますので、次年度も同様をお願いいたします。

〈原稿種別〉

- 1 評論(市町村教育長、各局指導主事等)
- 2 山紫水明(校長)
- 3 随想(教頭、教務主任、学級担任等)
- 4 心温まる話(どなたでも)
- 5 私の推薦する一冊の本(校長、教頭等)
- 6 やすらぎ保健室(養護教諭)
- 7 さわやか事務室から(事務職員)
- 8 わが町・わが学校(保護者)
- 9 研究実践校紹介(実践校)
- 10 子どもたちの学校紹介(児童・生徒)
- 11 子どもたちの作品(児童・生徒)

## 平成27年度 総務部報告

副委員長 高田 宏昭

### 1 活動経過報告

- 5月8日 道へき・複連総会  
第1回組織検討委員会  
第1回常任委員会
- 6月25日 第2回常任委員会  
組織検討委員会検討事項確認
- 7月 各地区の現状と課題調査
- 7月30日 第2回組織検討委員会
- 9月16日～18日  
第64回全道へき・複研究大会宗谷大会  
第3回常任委員会 (16日)  
評議委員会 (17日)・組織検討委員会中間報告
- 9月25日 第65回全道へき・複研究大会渡島プレ大会
- 12月 組織検討委員会案内 (事務局)
- 1月22日 第4回常任委員会  
第3回組織検討委員会  
・最終報告の検討
- 5月12日 第5回常任委員会
- 5月13日 平成28年度定期総会

### 2 平成27年度 教育予算要望

〈基本的な要望事項〉

1. 教員定数の配置基準および学級編成基準の改善
2. 教職員の生活の安定・向上のための改善
3. 教職員の資質向上に関わる研修についての改善
4. 学校経営の適正化と充実
5. へき地教育の推進についての改善
6. へき地勤務条件の充実

上記「基本的な要望事項」にもとづき、「北海道文教施策・予算策定に関する要望活動」[全へき連と連携した要望活動]を中心に行ってきた。その中で「平成28年度の文教施策と予算策定に関する要望書」に、「へき地校・複式校・小規模校・併置校に関わる」新たな項目を起し、要望を強調していく方向で策定中である。このことは、道へき・複連として画期的なことであり、大きな成

果である。

今後も、へき地・複式教育の教育環境の向上を目指し、ねばり強く取り組んでいく必要がある。

### 3 へき地級別指定見直しに関する取組

平成22年度の見直しにより、へき地級の指定がはずれた学校、特に複式校でありながら無級地となった学校において会費徴収の同意が得られず、退会を余儀なくされた学校がある。それによる会員の減少は、組織体制や財政面に大きな影響をもたらした。宗谷地区では、管内全体で対策協議会を組織し、署名活動はもとより道への陳情を継続的に行っている。各地区でも、へき地級指定に関わる情報交流や地教委との連携を深めた取組が一層重要である。

今後も次期改定に向けて、道教委の動きを注視しながら「地域の実態に応じた算定であるか。」「適切な調整点であるか。」などの情報収集に努め、全へき連、道小、道へき・複連OB会と連携を深めていく。

### 4 調査活動

例年実施している「全へき連基本調査」を実施

### 5 組織検討委員会の活動概要

#### (1) 組織検討委員会の構成

委員長：橋本 彰 (道北ブロック・上川)  
委員：岩崎 透 (道南ブロック・渡島)  
：志田 純一 (道央ブロック・後志)  
：山本 尋子 (道東ブロック・根室)

他に常任委員 (田中委員長、高田総務部長、岡嶋研究部長、小山財政部長、柿崎事務局長、古田事務局次長) を加え、計10名で構成

#### (2) 検討課題

##### ① 研究大会・プレ大会のあり方

##### ② 最終報告に基づく取組について

- ・組織の活性化と加盟校拡大
- ・研究活動の充実と深化
- ・財政の問題

##### ③ その他：今日的課題

- ・へき地級見直し
- ・社会及び理科等の学年別指導の充実

## 平成27年度 大会部報告

副委員長 井村 雅彦

### 1 大会名

第64回全道へき地複式教育研究大会宗谷大会  
第65回全道へき地複式教育研究大会渡島プレ大会  
第64回全国へき地教育研究大会熊本大会

### 2 宗谷大会の概要

#### (1) 研究主題

「主体的・創造的に学び、豊かな心で  
たくましくふるさとを切り拓く子供の育成」  
～へき地・複式教育の特性を生かし、児童生徒  
一人一人に未来に「生きる力」をはぐくむ学  
校・学級経営と学習指導の充実をめざして～

#### (2) 大会スローガン

「最北の風薫る宗谷の海と大地に生き  
未来を担う子らに 豊かな心と確かな学びを！」

#### (3) 開催期日

平成27年9月17日(木)～18日(金)

#### (4) 大会内容

- ◆17日(木):稚内市総合文化センター  
開会式  
基調報告  
分散会(学校・学級経営、学習指導)  
閉会式(感謝状贈呈式、次期開催地挨拶)
- ◆18日(金):8市町村9会場  
第1分科会…猿払村立浅茅野小学校・芦野小学校  
第2分科会…猿払村立浜鬼志別小学校  
第3分科会…浜頓別町立頓別小学校  
第4分科会…枝幸町立乙忠部小学校  
第5分科会…豊富町立兜沼小中学校  
第6分科会…幌延町立問寒別小中学校  
第7分科会…礼文町立香深井小学校  
第8分科会…利尻町立仙法志小学校  
第9分科会…稚内市立宗谷小学校

#### (5) 成果と課題

成果として、全道的に小規模・複式校が減少して  
いく中で、複式研究を進めていく困難性を近隣の  
単式校や中学校との連携を深めながら、市町村  
研究団体との協働での実行委員会体制を確立させ、  
研究を推進・深化させることができた。

また、集合学習やIT機器を活用した授業など、  
複式校の今日的な課題についての授業公開を実施  
し、研究を推進・深化することができた。

第9次長期5か年計画の2年次として、昨年の成  
果と課題を引き継ぎ、研究の方向性や深化を図る  
ことができた。

課題としては、期日が道教公大会と重なり参加数  
の減少があった。次年度は、全道的な研究会との  
日程調整が必要と考える。

### 3 渡島プレ大会の概要

#### (1) 研究主題

「主体的・創造的に学び、豊かな心で  
たくましくふるさとを切り拓く子供の育成」  
～へき地・複式教育の特性を生かし、児童生徒  
一人一人に未来に「生きる力」をはぐくむ学  
校・学級経営と学習指導の充実をめざして～

#### (2) 大会スローガン

「伝統に息づくロマン溢れる渡島の大地から  
未来を創る子らに 確かな学びと豊かな心を！」

#### (3) 開催期日

平成27年9月25日(金)

#### (4) 開催会場

- 第1分科会…松前町立小島小学校
- 第2分科会…知内町立涌元小学校
- 第3分科会…北斗市立島川小学校
- 第4分科会…七飯町立峠下小学校
- 第5分科会…七飯町立大沼小学校
- 第6分科会…森町立濁川小学校
- 第7分科会…八雲町立東野小学校
- 第8分科会…八雲町立野田生小学校
- 第9分科会…八雲町立山越小学校

#### (5) 渡島大会の意義

次年度、第9次長期5か年計画の3年目として、  
全道大会の開催に向け組織作りや研究体制の基盤  
を固めると共に、関係者の連携を深め、実り多い  
全道大会となるようへき地「3特性」の実践を確  
かめる大会とする。

### 4 全国熊本大会

#### (1) 研究主題

「ふるさとで心豊かに学び、新しい時代を切り  
拓く子供の育成」  
～へき地・小規模・複式学級を有する学校の特  
性を生かした 学校・学級経営と学習指導の  
深化・充実をめざして～

#### (2) 大会スローガン

「発信！火の国熊本から 新時代の教育を!!」

#### (3) 開催期日

平成27年10月15日(木)～16日(金)

#### (4) 分散会提言

##### ①第1分散会

課題1(学校・学級経営の深化・充実)

・家庭や地域と連携して、確かな学びを創る特  
色ある教育計画の創造と推進を図る。

##### ②提言発表者(根室地区)

別海町立西春別小学校 新谷 昌也 教諭

##### ③研究主題

一人一人が主体的に学び、  
確かな学力を身につける子供の育成  
～少人数・複式学級の特性を生かした  
学習指導を通して～

## 平成27年度 研究部報告

副委員長 岡嶋 治

### 1 研究主題

『主体的・創造的に学び、豊か心でたくましくふるさとを切り拓く子供の育成』～へき地・複式教育の特性を生かし、児童生徒一人一人に未来に「生きる力」をはぐくむ学校・学級経営と学習指導の充実をめざして～

### 2 研究活動の重点と成果

道へき・複連第9次長計の2年次として、実践研究を充実させ、地域に根ざした魅力ある教育活動の創造・発展に努める。

#### 《重点》

- (1)「第64回全道へき地複式教育研究大会宗谷大会」の成功を期した現地実行委員会との連携及び共同運営
- (2)従来の実践研究大会にかわる発表の場の企画・実践(全道へき複研分散会)
- (3)道へき・複連第9次長計「実践研究検証期」(第2年次)としての確かな実践、記録の累積・収集
- (4)「第65回全道へき地複式教育研究大会渡島プレ大会」の効果的な開催
- (5)研究資料・情報等の編集と発行(「研究主題・指導形態等一覧」「研究部情報」)
- (6)各地区へき・複連及び全国へき地教育研究連盟、教育関係各機関・団体との連携

#### 《主な成果》

◎第64回全道へき地複式教育研究大会宗谷大会

10月17～18日、宗谷管内9会場で開催され、全道から延べ600名近い参加者があった。大会スローガン『最北の風薫る宗谷の海と大地に生き 未来を担う子らに 豊かな心と確かな学びを!』のもと、授業公開、熱心な研究協議が行われた。

◎第65回全道へき地複式教育研究大会渡島プレ大会

9月25日、渡島管内9会場において開催され、全道各地から延べ300名以上の参加者があった。大会スローガン『伝統に息づくロマン溢れる渡島の大地から未来を創る子らに 確かな学びと豊かな心を!』のもと、自ら学び合う児童の育成等について授業公開、研究協議が行われた。

◎全道へき複研宗谷大会分散会

10月17日、稚内市総合文化センターにおいて、第64回全道へき地複式教育研究大会宗谷大会の全体会後に実施した。

管内3地区から、学校・学級経営(1本)と学習指導(2本)の提言発表が行われた。第9次長計に基づいて発表された提言はいずれも質が高く、活発な研究協議がなされた。

### ◎研究主題等一覧の集計と活用

全道の加盟校の研究主題・研究分野、教科等指導形態について調査集計し、分析を加えてまとめた。各地区及び加盟校にCD化して配布、HPにも掲載して活用を図っている。

### 3 研究部事業報告

5月18日 第1回企画委員会

- ・企画委員会の体制と各業務内容の確認
- ・全道へき研宗谷大会の参加協力体制について
- ・日程や役割分担の確認と研究推進委員会の運営について

5月18日～19日 第1回研究推進委員会

- ・平成27年度研究部計画の確認
- ・研究推進委員の業務と役割分担
- ・渡島プレ大会の助言者決定
- ・各管内へき・複連活動状況交流

7月6日 第2回企画委員会

- ・全道へき研、プレ研の進捗状況
- ・分散会の進め方について
- ・今後の研究と資料蓄積について

7月6日～7日 第2回研究推進委員会

- ・研究主題・指導形態等調査発行
- ・研究部情報第1号発行
- ・分散会の運営検討
- ・宗谷大会、渡島プレ大会への具体的協力について

7月31日 第1回全へき連研究図書編纂委員会

9月16日 第3回研究推進委員会

- ・分散会の運営確認
- ・研究部情報第2号発行計画

9月17日～18日 宗谷大会

- ・宗谷管内9会場(研究協力者)

9月25日 渡島プレ大会

- ・渡島管内9会場(研究協力者)

10月15日～16日 第64回全国へき地教育研究大会熊本大会

11月19日～20日 第41回研究推進協議会

11月20日 第2回全へき連研究図書編纂委員会

1月29日 第3回全へき連研究図書編纂委員会

2月15日 第4回企画委員会

- ・今年度の活動のまとめと次年度への展望
- ・分散会の反省
- ・次年度の事業計画、研究推進体制について

2月15日～16日 第4回研究推進委員会

- ・研究部情報第2号の発行
- ・今年度の事業反省・まとめ
- ・次年度の全道大会分散会について
- ・各管内へき・複連活動状況交流
- ・次年度の事業計画、研究推進体制について

# 平成27年度 財政部報告

財政部長 小山 寿樹

## 1. 平成27年度業務執行について

- (1) 会計業務については、事務局及び各部、各委員会、各地区へき・複連との連携を図り、計画に従って執行しております。
- (2) 道へき・複連会費については、当初予算より会員が増加したため、納入額がやや増の状態になっております。一部運営資金も活用しながら、計画に従って執行してまいりました。
- (3) 全へき連会計につきましては、前年度より会員数が減少したことにより納入額がやや減っております。全へき連への免除申請を行い、負担金を決定し、全へき連の負担金送付を終えております。また、管理職負担金につきましては、各地区のご協力により入金され、全へき連へ送金することになっております。
- (4) 刊行物の購読促進につきましては、全へき連発行の「へき地・複式・小規模学校の実践事例集(故郷からの風)」のみの取組となりました。各地区へき・複連においては発刊の趣旨をご理解賜り、ご協力いただいたことに感謝いたします。  
 なお、送金先については、各地区へき・複連から直接全へき連へ納入することになっております。
- (5) 運営資金会計は、予定よりも若干増加しました。納入された金額の中から規定通り全へき連へ送金いたします。各地区へき・複連のご理解とご協力で心より感謝申し上げます。

## 2. 平成28年度の予算編成について

- (1) 予算編成における収入の見込みについては、学校の統廃合や学校規模の縮小により、学校数・教職員数の減少等が予想されます。昨年度以上に厳しい情勢となることは必至です。予算編成の基礎資料として、3月上旬に各地区へき・複連の加入校数・教員数を調査し、収支予定額を把握した上で予算を編成します。各地区の担当者の皆様にはお手数をかけますが、よろしくお願いたします。
- (2) 平成28年度の一般会計については、諸活動の充実に努めるとともに、削減可能な項目をより意識して予算編成を行い、平成28年度総会に提案します。
- (3) 現在執行中の旅費規定は、予算編成の作業の中で検討し、削減が必要な場合ご協力を願うことも予想されます。
- (4) 全へき連会計は、納入される負担金の範囲内で執行します。各地区へき・複連においては引き続きへき地教員の納入拡大への働きかけや、養護教員・事務職員の納入、及び未加入校の加盟を促すようお願いいたします。
- (5) 刊行物会計については、平成28年度も、本道の実践も盛り込まれた全へき連の刊行物発行が予想されます。各地区へき・複連においては、研究図書購入として予算付けし、購読促進の取組をぜひお願いいたします。

### 平成27年度 一般会計執行状況 (平成28年 1月21日現在)

#### 【収入の部】

項目	27年度予算	1/21決算	増・減(▲)
会費	3,251,364	3,335,058	83,694
繰越金	157,296	157,296	0
繰入金	1,910,000	1,910,000	0
雑収入	350	1,452	1,102
合計	5,319,010	5,403,806	84,796

#### 【支出の部】

項目	27年度予算	1/21決算	増・減(▲)
研究大会費	1,020,000	1,020,000	0
研究調査費	1,820,000	1,622,820	▲197,180
研成刊行費	1,110,000	1,002,600	▲107,400
事務局費	1,369,010	949,494	▲419,516
合計	5,319,010	4,594,914	▲724,096

◇学 校 数 255校 ◇教 員 数 1563名

【差引残高(1/21現在)】 5,403,806円－4,594,914円＝808,892円



## 第65回 全道へき地複式教育研究大会 渡島大会の開催に向けて

渡島複式教育研究連盟研究部長 鈴木 敏文

### 1 はじめに

昨年9月25日(金)に9会場において、第65回全道へき地複式教育研究大会渡島プレ大会が開催されました。

渡島複式教育研究連盟は、函館市を除く渡島管内10市町中8市町にまたがる小学校26校で構成されています。渡島管内には小学校が48校ありますので、5割以上の学校が複式校ということになります。その中で管内を3つのブロックに分けて、各ブロックで足並みをそろえた研究推進を進めてまいりました。各分科会では、授業研究や指導案検討が6～9月の間で精力的に行われ、渡島プレ大会に向けた会場校の授業改善はもちろん、研究協力校にとっても授業力向上につながる貴重な取組となりました。

また、各ブロックでの研究推進と並行し、5月には複式初経験者研を開催し、管内の複式教育の向上に努め、7月と9月には、渡復主催の複式学校経営研教頭部会・校長部会をそれぞれ開催、経営力向上にも努めております。

こうした取組を経て開催された渡島プレ大会には、管内・管外より全会場合わせて300名以上の教職員及びご来賓・学校関係者の皆様にご参加いただきました。公開授業・研究協議では、複式授業の在り方について多くのご意見・ご助言をいただくことができました。この場をお借りいたしまして改めて心からお礼を申し上げます。

また、本研究大会の開催にあたり、多大なるご支援・ご協力をいただきました北海道へき地・複式教育研究連盟をはじめ、北海道教育庁渡島教育局、各市町教育委員会、会場校・研究協力校等、教育関係団体の皆様に心より感謝申し上げます。

### 2 渡島プレ大会の成果と課題

渡島プレ大会は、北海道へき地・複式教育研究連盟第9次長期5か年研究推進計画に則り、実践検証を進めてまいりました。また、各校では、自校の研究課題・研究内容と第9次長計の2分野8課題研究内容の関連を明確にし、研究推進に努め、以下のような成果と課題が明らかになりました。

#### 【成果】

- ・研究の指標となる「めざす子ども像」について、具体的な「学びの姿」として明らかにすることにより、研究の方向性が一層明確となった。

- ・単元全体のゴールを掲示することで子どもたちが見通しをもって取り組むことができた。単元を貫く言語活動を学習リーダーが中心となり進めることができた。
- ・学習規律を含め、形式や方法を統一することにより、落ち着いた雰囲気の中で授業に集中して取り組むことができ、学習効果が上がり確実な定着につながってきている。
- ・子どもが学校での地域体験活動を親に伝え、後日、家族と一緒に追体験するなど家庭と連携して学習を深める機会がみられた。

#### 【課題】

- ・個に応じた支援ができるように、個別の支援計画を立てて授業に臨む必要がある。また、集団に対しての評価基準ではなく、一人一人の評価基準を明確にしていかななくてはならない。
- ・単元を貫く言語活動やABワンセット方式など今後も実践を積み重ねて効果的な指導計画の在り方を探ることが必要である。
- ・画一的に形式や方法を統一するだけではよりよりノート作りへの意識は高まらない。意識の高まりを継続してもたせるための「指導の継続サイクル」を共有・実践する必要がある。
- ・地域との連携をより深めるために、地域人材や素材の発掘し、教育課程への意図的な位置づけをしていく必要がある。

### 3 渡島大会に向けて

第65回全道へき地複式教育研究大会渡島大会は、北海道へき地・複式教育研究連盟第9次長期5か年研究推進計画の3年次目の「実践研究検証期」のまとめとして、管内各複式校の系統的・発展的な実践をもとに研究を進めてまいりたいと考えております。また、渡島大会は、以下の理念のもと開催いたします。

#### ①渡島らしい教育の推進の場に

「すべては子どもたちのために」を合言葉に、子どもたちに確かな学びと豊かな心を

#### ②渡島らしい教育の発信の場に

長い伝統と歴史を誇る渡島の教育を広く発信し、子どもたちそして私たちの学びの機会を

#### ③渡島らしい教育の充実の場に

未来を創る子どもたちに「生きる力」を育み渡島の教育の充実と発展を

第65回全道へき地複式教育研究大会渡島大会は、今年9月29日・30日に開催いたします。全道の皆様と学び・語り合い複式教育の充実と発展に寄与する大会となるよう努めてまいります。皆様のご参加を心からお待ちしております。

## 第66回 全道へき地複式教育研究大会 釧路プレ大会の開催に向けて

釧路へき地複式教育研究連盟

事務局長 今井 直史

### 1 釧路へき地複式教育研究連盟の歩み

本研究連盟は、管内研究の一本化のため昭和52年に「釧路へき地複式教育研究会」という名称で組織を再編し、昭和54年度の阿寒大会を皮切りに、各町村持ち回りで研究会を開催してきました。

平成元年度「第39回全道へき研釧路プレ大会」、平成2年度「第39回全道へき研釧路大会」、平成15年度「第53回全道へき研釧路プレ大会」、平成16年度「第53回全道へき研釧路大会」という4回の全道大会を担当した後、平成22年度、名称を「釧路へき地複式教育研究連盟」と改称し、現在に至っております。

今年度は、道へき・複連第9次長期5カ年研究推進計画の2年次として、9次長計の研究推進計画を策定し、管内・市町村の共同研究体制を確立し、地域に根ざした魅力ある教育活動の創造・発展に努めて参りました。

### 2 管内の研究推進の方針

プレ大会開催に向け、管内では釧へき連内に実行委員会を組織して、以下に示す研究推進方針に従って取組を進めています。

- (1) 平成28年度は、第9次長計の3年次で「実践検証期間」の最終年度になる。釧へき連第9次長計の研究主題「主体的・創造的に学び、豊かな心でたくましくふるさとを切り拓く子供の育成」～へき地複式教育の特性を生かし、児童生徒一人一人に未来に「生きる力」をはぐくむ学校・学級経営と学習指導の充実をめざして～のもと、主題に迫る実践・検証に努める。
- (2) 学校・学級経営の深化・充実においては、地域の教育課題を踏まえ、家庭・地域社会と連携し、『豊かな心』を育てる学校・学級経営の創造を目標として、特色ある教育計画、開かれた学校・学級経営、豊かな心をはぐくむ教育活動等の創造と推進、実践

的な共同研究の推進に努める。

- (3) 学習指導の深化・充実においては、地域に根ざした、主体的・創造的な学び合いにより、『確かな学力』を育てる学習指導の創造を目標として、個性の伸長を重視した指導計画・実践・評価、主体性を育てる学習指導過程、地域に根ざした学習内容等の改善・充実に努める。
- (4) 近隣校、異校種や地域社会と連携した共同研究体制の確立に努める。

### 3 釧路プレ大会の概要

- (1) 大会期日：平成28年9月23日(金)
- (2) 会場：釧路管内8会場
- (3) 各分科会(H27現在の校内研究教科、年次)  
(H27、4現在の学校規模)
  - ア 釧路町立昆布森小学校〈全教科・道徳2/3〉  
普3＋特2(複式3学級)、児童数31人
  - イ 厚岸町立太田小学校〈国語科・2/2〉  
普3＋特2(複式3学級)、児童数22人
  - ウ 浜中町立散布小学校〈全教科3/3〉  
普4＋特2(複式2学級)、児童数37人
  - エ 標茶町立沼幌小学校〈全教科1/3〉  
普3(複式3学級)、児童数13人
  - オ 標茶町立塘路小学校〈国・算・社・理・英1/3〉  
普3(複式3学級)、児童数10人
  - カ 弟子屈町立奥春別小学校〈国語科2/3〉  
普3(複式3学級)、児童数21人
  - キ 鶴居村立下幌呂小学校〈全教科・道徳2/2〉  
普4＋特2(複式2学級)、児童数36人
  - ク 白糠町立茶路小学校〈全教科・道徳1/3〉  
普3(複式3学級)、児童数13人

### 4 おわりに

昨年の渡島プレ大会・宗谷本大会とは反対方向の道東での開催となり、道南や道北方面からはかなりの遠隔地に当たりますが、全道各地より多数の方にご参加いただきますようお願い申し上げます。また、皆様からの発展的なご批正を次年度の釧路本大会の成功に役立てるべく釧へき連の組織をあげて取り組みますので、第66回全道へき地・複式教育研究大会釧路プレ大会にご参加いただきますよう、心よりお願い申し上げます。